

「やさしい日本語」とは？

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。これは特に、地震などの災害が発生したときに有効なことばです。95年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本に来ていた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な避難情報を受け取ることができない人もいました。災害が起きたときに、多言語での情報が提供されるようになるまで約3日(72時間)かかります。そこで、外国人が災害発生時から72時間の間に正しい情報を得て適切な行動をとれるよう考え出されたのが「やさしい日本語」です。

下の二つの文章を読み比べてみてください。文章Aは、阪神・淡路大震災のときに実際にラジオで放送された文をもとに作成したものです。詳しく書いてあって、たくさんの方がわかります。文章Bは、「やさしい日本語」を使った文です。文章Aよりも情報量は少ないですが、読んですぐに内容がわかります。「やさしい日本語」の文は、通常の日本語文に比べ、一つひとつの文章が短くすっきりしていて、難しいことばを使っていないので、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすいと思われれます。以上のように、通常の日本語を、外国人にも伝わるよう、簡潔でわかりやすくしたものが「やさしい日本語」です。

A

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。

大きな地震のあとには余震のおそれがあります。

引き続き厳重に警戒してください。

皆さん落ち着いて行動をお願いします。

ガス臭いような所がありましたらマッチを擦らないでください。

照明のスイッチをつけたり、消したりということはしないでください。

〇〇市は断水や停電となり、市民の生活は麻痺しています。

B

きょう あさ じ ふん とうほくちほう おお じしん
今日 朝 7時21分、 東北地方で 大きい 地震が ありました。

おお じしん よしん く じしん
大きい 地震の あとには 余震 あとから来る地震が あります。

き
気をつけて ください。

ガスの においが するときは ひを つか
使わないで ください。

でんき
電気の ブレーカーを 切って ください。

〇〇市は みず でんき つか
水と 電気が 使えません。

じしん こわ たてもの ちか
地震で 壊れた 建物に 近づかないで ください。

「やさしい日本語」 Q & A

Q 1. どうしてやさしい日本語で伝えるのですか？ 英語や中国語ではだめなのですか？

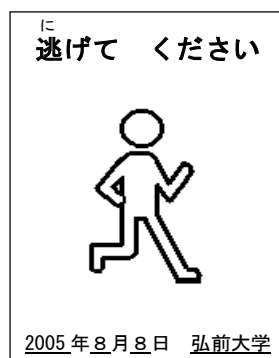
A 1. 災害が起きた直後の情報は、被災地に住んでいるすべての外国人のことばに翻訳して伝えることが理想です。しかし、日本語で作った文を外国語に直して、それから情報を流すのでは、とても時間がかかってしまいます。72時間という限られた時間の中で、正確な情報を素早く提供するには、「やさしい日本語」を用いるのが最も効果的だと思われます。

また、日本に住む外国人の中には、英語や中国語がわからない人もたくさんいます。やさしい日本語なら、買い物をしたりバスに乗ったりすることができる人なら理解できる日本語で作られていますので、より多くの外国人に災害の情報を伝えることができます。また、日本語を話せる人ならば誰にでもすぐに作ることができるという利点もあります。

Q 2. やさしい日本語ってどれくらいやさしいのですか？

A 2. 友人との待ち合わせ(時間や場所を決める)ができたり、自分の欲しいものを説明して買い物ができたりする程度の日本語能力があれば理解できる日本語で作られています。おおむね日本語能力試験3級程度の日本語能力があれば十分理解することができると思います。文字で言うと、小学校2、3年生で習う程度の、読み書きするのが難しくない漢字とひらがなおよびカタカナによる表現です。

ちなみにポスターやビラでは、やさしい日本語のほかに複数の外国語でも表示するようにしています。わかりやすい絵や図とともに示すことで、日本語能力試験3級程度の能力がない人でもわかるよう配慮しています。



Q 3. 私にも作れますか？ どうすればやさしい日本語を作ることができますか？

A 3. 以下の「やさしい日本語の作り方」をご覧ください。簡単に作ることができます。

□やさしい日本語文の作り方

(1) 1文を短くして、文の構造を簡単にしてください。

例：「地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物に近づかないでください」
→ 「地震で壊れた建物に気をつけてください」

(2) 日本語に不慣れな外国人にとって、難しいと思われることばでも、災害時にはよく使われます。そのため、知っておいたほうが良いと思われることばはそのまま使い、そのことばの後に〈 〉を使って言い換えています。一緒に使ってください。

例： 消防車 → 消防車〈火を消す車〉
災害時によく使われることば 言い換えたことば

(3) 外来語は、日本人以外には通じないと考えてください。原語と意味が異なる外来語があるので、使用する際は気をつけてください。

例：ダイヤル ----- 原語とは発音が全く異なっています
ライフライン ----- 原語とは意味がなっています
デマ ----- 原語では行われない省略です

(4) 動詞を名詞化したものもわかりにくいので、できるだけ動詞文にします。

例：「揺れる」 揺れがあった → 揺れた

(5) 否定の表現を用いるときには、二重否定の表現を避けてください。

例：「通れないことはない」 → 「通ることができます」「通れます」

(6) 助詞は、できるだけ外国人にとってわかりやすいものにします。以下の用例に従ってください。

○ 主語を表す助詞は「…は」でも「…が」でもどちらでも可能です。

例：「まだ地震は来ます」「まだ地震が来ます」

○ 方向を指示する助詞は「…へ」でも「…に」でもどちらでも可能です。

例：「観光館へ行ってください」「観光館に行ってください」

○ 時間を表す助詞は、記号「～」ではなく、「…から」に統一します。

例：「電気を【午前・午後】00:00～使うことができます」
→ 「電気を【午前・午後】00:00 から使うことができます」

(7) 「おそらく…」「たぶん…」などの、あいまいな表現はできるだけ避けてください。

(8) 表記の点で、漢字を使ったほうが漢字圏の人にはわかりやすいという利点があります。漢字が多すぎると、非漢字圏の人には読みにくいので、使用量に注意してください。なお、漢字にはルビをふってください。

Q 4. やさしい日本語に対する社会的評価はどうか？

A 4. 「やさしい日本語」研究では災害時における情報提供を主な目的としていますが、ふだんの暮らしに関する情報提供に「やさしい日本語」を活用している自治体や団体もあります。また、弘前大学人文学部社会言語学研究室が刊行した『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』（2005）は新聞各紙に紹介されました。以下では「やさしい日本語」の活用事例と社会的評価について紹介します。

□活用事例

日本の各自治体や団体では、生活情報や観光案内など外国人向けの情報誌や、防災マニュアルなどに「やさしい日本語」を活用しています。コミュニティFMでは「やさしい日本語」による情報提供番組を放送しています。また、“Easy Japanese”というタイトルで高校2年生用の英語教科書にも掲載されています。

- | | |
|-----------------|---|
| ○ 弘前市 | ・ やさしい日本語を使った標識
・ 弘前市国際化推進基本計画の策定（外国人に対する災害時の情報提供などで「やさしい日本語」を活用することを明記）
・ 留学生パスポート（やさしい日本語で表記） |
| ○ 埼玉県 | ・ 「やさしい日本語による埼玉県暮らしのガイド」 |
| ○ 仙台市 | ・ 多言語防災マニュアル（DVD）「地震」やさしい日本語版 |
| ○ 横浜市 | ・ 外国人市民等に提供する生活情報や観光案内などのやさしい日本語での情報提供 |
| ○ 横浜市国際交流協会 | ・ 外国人向け月間情報誌「よこはま Yokohama」やさしい日本語を使った情報誌作成 |
| ○ 横浜市青葉国際交流ラウンジ | ・ 広報紙「青葉ラウンジニュース」
・ 月間情報紙「たまたまこ」 |
| ○ FMアップルウェーブ | ・ 「やさしい日本語で伝えたい 暮らしの情報ランド」 |
| ○ FMわいわい | ・ 「くらしに役立つ多言語情報 やさしい日本語版」 |
| ○ 大修館書店 | ・ 英語教科書『Genius』（Lesson 6 Easy Japanese） |

□2005年刊行『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』に対する社会的評価

『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』は、1999年に刊行された『災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル（弘前版）』の新版です。2005年の1月に刊行しましたが、以下のような新聞で取り上げていただき、多くの反響を得ることができました。新聞以外にも、日本語教育や日本語学関係の雑誌、さらにはボランティア団体や、福祉、入管、総務省など、それぞれの分野を代表する機関誌で取り上げていただきました。

新聞記事

2005. 01. 12 読売新聞、日本経済新聞、Japan Today、秋田魁新報、岩手日報、福島民友新聞
静岡新聞、神戸新聞、中国新聞、四国新聞、徳島新聞、山陽新聞、熊本日日新聞
2005. 01. 16 The Japan Times
2005. 01. 17 産経新聞
2005. 01. 18 朝日新聞、毎日新聞、河北新報、陸奥新報、東奥日報
2005. 06. 19 日本経済新聞

災害が起こったときに 外国人を助けるためのマニュアル

1999年3月に、弘前大学人文学部国語学研究室(現 社会言語学研究室)が、『災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル(弘前版)』(以下、旧版マニュアル)を刊行しました。それに基づき、2005年1月、弘前大学人文学部社会言語学研究室と減災のための「やさしい日本語」研究会が共同で『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』(以下、新版マニュアル)を刊行しました。

新版マニュアルでは、旧版マニュアルに新しい具体例を追加し、最新の情報に更新しました。体裁も、より使いやすいものに改善し、全国の自治体や図書館等に配布しました。

新版マニュアルの構成は以下のようになっています。

- I ラジオ放送や防災無線、テレビでの字幕スーパーに使える「やさしい日本語」の案文を時系列に配置しています。
- II 発災直後から使える「やさしい日本語」を用いたポスターやビラの具体例があります。
- III 外国人にとって必要となる外国語で治療を受けられる病院のリストやボランティア団体への連絡方法、大使館への連絡方法などを記載しています
- IV 「やさしい日本語」が考え出された経緯や基礎資料となった文献のリストがあります

マニュアルは、弘前大学社会言語学研究室のホームページで自由にダウンロードすることができます。詳細につきましては弘前大学社会言語学研究室のホームページをご覧ください。

弘前大学社会言語学研究室 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/Default.htm>

□ マニュアルの入手先

○弘前大学生協書籍部で、1冊3,500円(税・送料500円込み)で頒布。

Tel:0172-33-3742 (織田) Fax:0172-33-8973
k-hayakawa@coop.hirosaki-u.ac.